

学校法人羔学園羔幼稚園 学校評価会

保護者、卒園生保護者、地域の識者の方々等関係者をお招きし、学校評価会を実施した。

日時： 2025年3月31日（月） 16:00～

場所： 羔幼稚園ホール

◎ 報告内容

◆ 活動について

岸憲秀園長より、「羔ごよみ」に基づき、羔幼稚園の2024年度の活動について報告された。

◆ 今年度の保育について

新型コロナウイルス感染症が特別なことではなくなってきた昨今ではあったが、集団生活のなかにおいて、いつでも感染蔓延の震源地になりうる可能性を考え、緊張感をもって保育にあたった。また、子ども一人一人の特徴や育ちによる違いに配慮しつつ保育をすすめてきた。

2017年の教育要領により、生きる力をつける保育、非認知能力を育む保育が求められている。

● 自然物

羔幼稚園では自然物に触れ、土、砂、水に親しむことを大切に、そこから生きるための基礎となる「ちから」を身につけていけるようにと願って日々の保育を計画している。

● 食育

子どもの発信を受けとめて実施することを心がけている。そうすることで、苦手なものでもこの時は口にする子が出ている。食べることを通して関心を広げたいと、みんなで分け合っていく機会をもった。年長が豚汁を作ったり、誕生会ではクッキー作りをしてもてなした。

◆ PTA 活動

会長、副会長のご尽力により、催事として移動動物園を招き、講習会では救命救急としてAEDを学んだ。

◆ キリスト教保育

卒園を前に、年中、年少を伴い、卒園礼拝に臨んだ。教会から生み出された園としてのあるべき姿として、教会の方々と共に礼拝し、教会からこどもさんびかを贈られ、ひとりひとりに手渡された。

今年は教会と幼稚園がともに 95 周年を迎えた。車の両輪としてともに在った月日を守られたこと、教会が幼稚園を生み出してともに福音伝道の業に遣わされたことを感慨深く思う。

幼稚園の母体である千葉本町教会はメソヂスト教会である。メソヂスト教会は学校伝道にも力を入れた。J.Wesley の母、スザンナは「子どもたちが言葉を発したら、まず祈ることを教えよ」との教えに立たされている。ここに根をしっかりと張り、幼児が人生のはじめの時に創り主を覚え、祈ることを知ってほしいと心から願う。

◎ 出席者の声

◆ 保護者から

草ぶえの丘に卒園おとまり会に行き、さんびかを口ずさみ、お祈りをしていた。

子どもの時のつながりがずっと続いていく。

◆ 理事から

いろいろな子を受け入れていることがわかる

◆ 地域の識者から

生きる力を育むこと、心に感じることを素直に言える人になってほしい。話を聞く力も大事に。

ひきだしを多く持てるようになってほしい。

野菜をどのように扱ったのか、また移動動物園の様子を教えてほしい。

◎ その他

◆ 千葉市民間子どもルームについて

教会の敷地に、「(仮称) こひつじほ〜る」を建設予定である。その建物の1Fで千葉市民間子どもルームいわゆる学童を開く予定である。開所は秋口を予定している。幼稚園、教会、千葉YMCAが三つ巴で子どもを育てていく事業としていきたい。